

卒業式式辞

卒業生諸君、この度は長崎国際大学、そして大学院ご卒業おめでとうございます。すでに3年以上を経過したコロナ禍の中で、決して心折れることなく、本日晴れの卒業の日を迎える諸君に心から拍手を送ります。

昨年の全国高校野球選手権大会、いわゆる夏の甲子園大会で優勝したのは仙台育英高校でしたが、監督の須江航監督は、インタビューで、全国に向かってこう述べました。「コロナ禍のため、入学式も卒業式も行われなような厳しい環境の中で、生徒たちは良くそれに耐え、頂点に輝きました。青春ってすごく密なんで、その密がだめだと言われても(以下略します)」。この「青春ってすごく密なんで」、という言葉は、昨年の流行語大賞特別賞に選ばれておりますが、本当に高校球児のみならず、すべての高校生が、青春の真ただ中で送る日々を制約を受けながら苦しい生活をしてきたことを改めて実感し、私は震えるような思いで、このスピーチを聞きました。大学生生活も全く同じで、当然あるべき「密」の環境が妨げられ、諸君の学習、アルバイト、部活動など、計り知れない苦労があり、さぞ息苦しい中で時間が流れたのであらうとご推察申し上げます。

幸いにも多くの学生が社会に出るこの5月からは新型コロナウイルス感染症もインフルエンザ感染症と同等の対応に格下げされ様々な規制も緩和されていくことが期待されています。本ウイルスの感染力は変わらない中で、社会の一員として、ヒトとしてのモラルが今以上に問われるようになるのは重要な視点であり、諸君が行う社会活動のなかでの自分の立ち位置を常に確認しながら、前に向かって歩んで行って欲しいものであります。

「人生には3つの坂がある、上り坂、下り坂、そしてまさか」。と言ったのは関東大震災で荒廃した東京の再建を任された東京市長の後藤新平でした。人生には上り坂、つまりいいときばかりでなく、必ず下り坂、不遇な時が訪れます。不意に訪れたその時に如何にわが身を処するかで人としての真価が問われ、それに続く人生が大きく変わるの言うまでもありません。どうかコロナ禍で培った不屈の精神と本学で受けた教育をベースに、下り坂やまさかの時に備えるべく経験と教養を養いながら、決してへこたれない強い心を持ち、充実した人生を送って欲しいと願っております。

激動する社会の中で、世界情勢も様々な価値観も今まで以上のスピードで変動して参ります。卒業生諸君においては、常に自分自身を失わず、単なる見てくれや印象にとらわれない本物の人間力を備えた社会人となり、明日の日本のロコモティブとなっただきたいと心から願っております。未知の社会という大海原に船をこぎ出す学生諸君、本学で手にした、海図とコンパスを使いながら、夢の島に辿り着くことを祈念致しております。

令和5年 3月11日 長崎国際大学 学長 安東 由喜雄